

一の宮っ子

第16号

発行
一宮市児童育成連絡協議会
事務局
一宮市社会福祉センター
思いやり会館内・2階
一宮市桜1丁目12番1号
TEL・FAX 0586-73-0356
ホームページアドレス
http://home.owari.ne.jp/~jido-ren/
平成22年11月18日

子どもの職業体験



6月12日、子どもの職業体験実施事業が南知多で開催されました。地引網体験に参加した児童達の感想を紹介します。

宮西連区

六年 内村 敦也

「ぐぐぐ、あとすこしだ！」
自分の前に大きな網が見えた。地面にあみがすべてでて魚があみの中から青いブルーシートの上に出された。魚は、シーバス、コノシロ、クロダイ、メバル(ちぎよ)、タコ、イカ。漁師の先生がシーバスにほうちようをさしていきはじめました。おそろしかつたけど、この仕事にきょうみをもった。

大徳連区

六年 王野 真衣

今日は、初めての地引網体験でした。少きんちようしながら網を手にとり、ひっぱりはじめました。初めはかるくて「楽勝♪」と思っていたら、だんだん重くなっていき、つらくなってきたけれど、魚が見えたとき「ヤッター!!」と思いました。そのとれた魚の漁師汁を飲みました。おいしかったです。みんなで力を合わせたら、こんなにもおいしくなるんだなと思いました。

神山連区

五年 小野 佑紀

私は初めて地引網を体験しました。最初は、地引網なんてかんたんだと思っていました。が、いざやってみるとあみが重くてとてもむずかしかったです。そのあとに魚をさわらせてもらいましたが、いがいと固かったです。

大和町連区

六年 各務 沙菜

今日はじめて、地引あみ体験をしました。思ったよりたくさん魚がかかったの、うれしかったです。自分たちでとった魚は、すごくおいしかったです。「漁師さんは、すごく大変な力仕事をやって、私たちに魚を食べさせてくれてるんだなあ。」と実感しました。今日1日楽しかったです。



▲ お魚がいっぱい！うれしいな♪

小信中島連区

六年 藤橋 沙知

私は地引網をして、魚をとるのは、たいへんだと思いました。魚をとったとき、とてもおもたくて大変だったけど、魚から命をいただくの大変さから大切に食べようと思いました。ほねがいっぱいあって食べるのが大変だったけど、しんせんでおいしかったです。

千秋町連区

六年 今井 芹乃

地引網なんて、初めての体験だったので「どうなるのかなー?」と、少し心配だったけれど、みんなで楽しくできて良かったです。思っていたよりも大変で、とってもつかれました。でもその分、自分たちでとった魚はとってもおいしかったです。「魚の命をむだにしてはいけないな。」と思いました。

富士連区

六年 江川 花菜

初めて地引あみを体験しました。何回もつなを引きながら、まわって前にいったのでつかれました。でも、魚がとれてうれしかったです。

西成連区

六年 長谷川 舞

初めての地引網体験は大変でした。網を引くのは、力が必要でつかれました。引きあげたら、イカ・タコ・ふぐ・クロダイ・ボラなどの魚がとれました。イカ・タコ・クロダイ・ふぐなどもさわりました。ふぐは大きいのをさわったことはあったけど、小さいのをさわるのは今日が初めてでした。約30分だったけど、いい体験ができました。

北方町連区

六年 望月 培世

ぼくは、地引網を体験しました。地引網は、思ったよりかるかったです。地引網でいろいろな魚がとれました。中でも「フグ」は、かわいかったです。体をふくらませていました。さわったらプニプニしていました。とれた魚をつかった「りょうじる」はとてもおいしかったです。また食べたいです。



▲ みんなで力を合わせて～よ～いしょっ!



▲ とった命は、大切に食べようと思いました



球技大会

丹陽町連区多加木子ども会
六年 浅井 純佳



▲ みんなの応援があると元気が出るよ!

7月18日に丹陽小学校でソフトボールとドッジボールの中央大会が行われました。私たちは丹西小の代表の一つとして丹小・丹南小のチームとドッジボールの試合をしました。初めに会うチームとの試合で、とてもきんちょう指して声を出し、気合いを入れて試合をしました。初めはすぐきんちょうしていたけど、試合をするうちに、どのチームとも仲良くなって、楽しかったです。4年生も5年生も、いつも以上に応援してくれて、役員さんも大きな声で一生けん命応援してくれました。だから、きつと優勝できました。5月からこの優勝のために、「一生けん命練習してきたので、最後の大会で「全勝優勝」できて、とってもよかったです。練習の時には昨年のキャプテン、

副キャプテンの先はいちちも来て、私たちが優勝するために、教えてくれました。私たちが多加木子ども会はずっと優勝してきたので、無事「8連ば」できてとてもよかったです。

浅井町連区大日比野子ども会
六年 西 翔也



▲ 「Tボール」 けっこうおもしろいよ!

7月17日「Tボール大会」が行われました。優勝できて、とてもうれしかったです。同時にどうしてこんなにほっとしたのか。それは土、日曜日になると雨ばかりふってなかなか練習ができなかったからです。ぼくたちのチームに少年野球をやっている人が4人います。少しは自信がありました。でも、野球とはボールがちがうし、うまくキャッチできるか、すごい打者が現れたらホームランを打たれるかもしれないし、エラーやヒットでどんどん点数をとられるかも? こんな心配やきんちょうしながら、二試合勝ち進んだ。「よし優勝するぞ!!絶対に!!」とだんだん自信がついてきました。みんなかけ声も大きくなって、体に力が入って

きました。練習でできなかったけど、やっぱり、チームワークが一番大切だと思いました。一人一人の力が一つになって大きな力になった時、自信がわいてくるのだと思います。とても暑かったけど、優勝できてほんとうにうれしかったです!

起連区ひまわり子ども会
六年 多治見 璃斗



▲ ドッジボールはいつも真剣勝負!

5月30日、日曜日にドッジボール大会がありました。まず、赤黒白とチームに分かれて、ぼくは白でした。最初に戦ったチームは、黒チームでした。黒チームにまず一回勝ったけど二回目は負けました。三回目、ぼくは「つぎ勝たなければ負けてしまう」と思って、がんばって勝つつもりでやったけど、一対二で負けました。「でも次、かならず勝つぞ。」と思いました。二回戦、次は、赤対白でした。一回目は白が勝って、二回目も勝って、二対〇で白が勝ちました。ぼくは、「ヤッター勝ったー!」と思っただけど、黒チームには負けてしまい「くやしい」と思いました。六年最後のドッジボール大会は、「楽しかったなあー」と思いました。

平成22年度 西尾張地区 地域子ども会 指導者育成研修会

6月26日に大口町健康文化センター「ほほえみプラザ」で、西尾張地区の子ども会関係者が集まり、研修会が開催されました。

SHIPおおぐちキャラバン隊の皆さんによる公演に始まり、午後のグループ討議という日程でした。

キャラバン隊の公演は「みんなちがってみんないい」というテーマで、障がいを持つ子どもの体験をしました。特に軍手をはめたままで折り紙を折るといふ動作は、至難の技でした。また、指示を出した側の意図を正確に受け取る

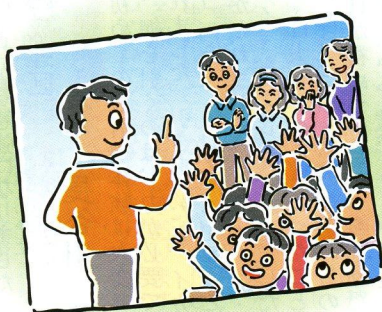
ことの難しさも実感しました。各自に適切に伝わるような指示の出し方の工夫が必要だと認識させられました。

午後は四つのグループに分かれ、「子ども会ってどんなところ?」について意見交換をしました。学校よりも小さな集団で、上級生から下級生まで一緒に活動をするということの楽しさや難しさの話が出ました。地域の方との触れ合いができることを挙げる意見もありました。

最後には、子ども会は楽しいところという意見でまじり、親はこれからもその活動を支えていこうと気持ちを新たにしました。



▲ 指示の出し方にも気をくばります



指導者・年少リーダー 研修会

萩原町連区河田方子ども会
六年 岩田 恭佳

今日は、いろいろなゲームをしました。そのなかで楽しかった遊びがありました。

ハンマーシューミットゲームとリズムミットゲームの遊びです。また、出世ジャンケンという勝つたびに進化し、人間になるゲームでは、初めて会った人たちでも楽しくジャンケンをしてやれるの、いいなあと思いました。負けると、また最初のゴキブリにもどってしまいうけど、とっても楽しくて、小さな子たちでも楽しくできるの、いいなあと思いました。



▲げ! またゴキブリになっちゃった

研修会

あつて、それを子ども会でも、たくさんやっていきたいと思いました。



▲どのゲームも子ども会でやりたい

大徳連区西五城中子ども会
六年 吉川莉里花

私は、一宮市富士小小学校の体育館で、指導者・年少リーダー研修会に参加しました。

私は、はじめこの研修で何をやるのかわかりませんでした。でも後からこれはゲームをみんなでも楽しむ会ということがわかりました。

この日はたっぷり時間があつて、色々なゲームができました。知らない子といっしょにやるゲームもあったので、すごくきんちょうしました。でも、気軽に話しかけてくれた子がいたので、楽しくゲームができました。ゲームの説明の仕方が、とてもわかりや

すかったので、ゲームがどんどん進んでいきました。気付いたらもう終わりの時間でした。でも、とってもたくさんさんのゲームを教えてもらえたのでよかったです。

このときやったゲームをこれに参加できなかった友達に教えて、どんどん広めていきたいいなあと思います。

★ゲーム紹介★

「後だしジャンケン」

リーダーが出したこぶしの後からリーダーと同じこぶしを出す。

リーダーが出したこぶしの後からリーダーに勝つこぶしを出す。

リーダーが出したこぶしの後からリーダーに負けこぶしを出す。

かけ声は「ジャンケン、ポン、ポン」



▲新しい友達もできて楽しかったなあ

東海北陸地区 子ども会育成研究協議会

指導部長 加藤 和子

9月25日と26日に金沢で開催された「東海北陸地区子ども会育成研究協議会」に、一宮市から六名が参加しました。参加者は総勢二五〇名余りで、初めて参加した私は、まずその人数に圧倒されました。更に驚いたのは、子ども会活動に携わって二十年、三十年という経験者がいらしたということです。子ども会活動は、たくさんの方々の熱意と支えがあつて成り立っていることを知り、頭が下がる思いでいっぱいになりました。

四つの分科会では、それぞれの発表者が子ども会活動の事例を発表し、皆で意見交換をしました。私が参加した分科会では、子ども会活動に消極的だったお母さんに対して、自ら地域とのパイプ役をし、無理なく楽しい子ども会活動が出来るように奮闘された方の発表がありました。その成果は、お母さん達自身が活動を楽しみ、自分達でおそろいのユニフォームまで作り、イベントを盛り上げたというものでした。



子ども会活動は、それぞれのしきたりや地域性などで色々な形があり、この方法がベストというのは難しいものです。しかし、周りの方々と協力し、皆で楽しみながら活動していくことは、どの子ども会でも実践出来るのではないでしょう。私も、この研修を通して感じたことをしっかりと受け止め、今まで以上に子ども会の指導者の皆さんの力になれるようにがんばりたいと思います。



▲子ども会活動への思いは皆同じなのだと感じました

